

教えてもらった話

～私たちが大切なことだと感じたこと～

VOL. 1

ご自由にお持ち帰りください。



～本当の仕事とは～

その女性は何をしても続かない人でした。田舎から東京の大学に来て部活やサークルに入るのは良いのですがすぐイヤになって次々と所属を変えていくような人だったのです。そんな彼女にもやがて就職の時期がきました。最初、彼女はメーカー系の企業に就職します。ところが仕事が続きません。勤め始めて3ヶ月もしないうちに上司と衝突し、あっという間にやめてしまいました。次に選んだ就職先は物流の会社です。しかし入ってみて、自分が予想していた仕事とは違うという理由でやはり半年ほどでやめてしまいました。次に入った会社は医療事務の仕事でした。しかしそれも、「やはりこの仕事じゃない」と言ってやめてしまいました。そうしたことを繰り返しているうち、いつしか彼女の履歴書には入社と退社の経歴がズラッと並ぶようになっていました。

すると、そういう内容の履歴書では正社員に雇ってくれる会社がなくなってきました。ついに、彼女はどこへ行っても正社員として採用してもらえなくなりました。だからといって、生活のためには働かないわけにはいきません。田舎の両親は早く帰って来いと言ってくれます。しかし、負け犬のようで帰りたくはありません。結局、彼女は派遣会社に登録しました。ところが派遣も勤まりません。すぐに派遣先の社員とトラブルを起こしイヤなことがあればその仕事をやめてしまうのです。彼女の履歴書にはやめた派遣先のリストが長々と追

加されていきました。

ある日のことです。例によって「自分には合わない」などと言って派遣先をやめてしまった彼女に、新しい仕事先の紹介が届きました。スーパーでレジを打つ仕事でした。当時のレジスターは今のように読み取りセンサーに商品をかざせば値段が入力できるレジスターではありません。値段をいちいちキーボードに打ち込まなくてはならず。多少はタイピングの訓練を必要とする仕事でした。ところが、勤めて1週間もするうち、彼女はレジ打ちにあきてきました。ある程度仕事に慣れてきて「私はこんな単純作業のためにいるのではない」と考え始めたのです。とはいえ、今までさんざん転職を繰り返し我慢の続かない自分が彼女自身も嫌いになっていました。もっとがんばらなければ、もっと耐えなければダメということは本人にもわかっていたのです。しかし、どうがんばってもなぜか続かないのです。この時、彼女はとりあえず辞表だけ作ってみたものの決心をつけかねていました。するとそこへお母さんから電話がかかってきました。「帰っておいでよ」受話器の向こうからお母さんのやさしい声が聞こえてきました。これで迷いが吹っ切れました。彼女はアパートを引き払ったらその足で辞表を出し田舎に戻るつもりで部屋を片付け始めたのです。

長い東京生活で荷物の量はかなりのものです。あれこれ段ボールに詰めていると机の引き出しの奥から1冊のノートが出

てきました。小さい頃に書きつづった大切な日記でした。なくなっ
て探していたものでした。パラパラとめくっているうち、彼女は「私
はピアニストになりたい」と書かれているページを発見したのです。
そう彼女の高校時代の夢です。

「そうだ、あの頃私はピアニストになりたくて練習をがんばって
いたんだ。。。」

彼女は思い出しました。なぜかピアノの稽古だけは長く続いていた
のです。しかし、いつの間にかピアニストになる夢はあきらめていま
した。彼女は心から夢を追いかけていた自分を思い出し、日記を見つ
めたまま本当に情けなくなりました。「あんなに希望に燃えていた自
分が今はどうだろうか。履歴書にはやめてきた会社がいくつも並ぶ
だけ自分が悪いのはわかっているけどなんて情けないんだろう。そ
して私はまた今の仕事から逃げようとしている。。。」そして彼女
は日記を閉じ泣きながらお母さんにこう電話したのです。「お母
さん 私もう少しここでがんばる」

彼女は用意していた辞表を破り、翌日もあの単調なレジ打ちの
仕事をするためにスーパーへ出勤していきました。ところが「2、3
日でいいから」とがんばっていた彼女に、ふとある考えが浮かびま
す。「私は昔 ピアノの練習中に何度も何度も弾き間違えたけど、
繰り返し弾いているうちに どのキーがどこにあるかを指が覚えて
いた。そうになったら鍵盤を見ずに

楽譜を見るだけで弾けるようになった」彼女は昔を思い出し心に決めたのです。

「そうだ 私は私流にレジ打ちを極めてみよう」
とレジは商品毎に打つボタンがたくさんあります。彼女はまずそれらの配置をすべて頭に叩込むことにしました。覚え込んだらあとは打つ練習です。彼女はピアノを弾くような気持ちでレジを打ち始めました。そして数日のうちに ものすごいスピードでレジが打てるようになったのです。

すると不思議なことに、これまでレジのボタンだけ見ていた彼女が、今まで見もしなかったところへ目がいくようになったのです。最初に目に映ったのはお客さんの様子でした。「ああ、あのお客さん、昨日も来ていたな」「ちょうどこの時間になったら子ども連れで来るんだ」とか、いろいろなことが見えるようになったのです。それは彼女のひそかな楽しみにもなりました。相変わらず指はピアニストのように、ボタンの上を飛び交います。そうしていろいろなお客さんを見ているうちに、今度はお客さんの行動パターンやクセに気づいていくのです。「この人は安売りのものを中心に買う」とか「この人はいつも店が閉まる間際に来る」とか「この人は高いものしか買わない」とかがわかるのです。

そんなある日、いつも期限切れ間近の安い物ばかり買うおばあちゃんが、5000円もするお頭付きの立派なタイをカゴに入

れてレジへ持ってきたのです。彼女はビックリして、思わずおばあちゃんに話しかけました。「今日は何かいいことがあったんですか？」おばあちゃんは彼女ににっこりと顔を向けて言いました。「孫がね、水泳の賞を取ったんだよ。今日はそのお祝いなんだよ。いいだろう。このタイ」と話すのです。

「いいですね おめでとうございます」

嬉しくなった彼女の口から自然に祝福の言葉が飛び出しました。お客さんとコミュニケーションをとることが楽しくなったのはこれがきっかけでした。いつしか彼女はレジに来るお客さんの顔をすっかり覚えてしまい。名前まで一致するようになりました。「〇〇さん 今日はこのチョコレートですか。でも今日はあちらにもっと安いチョコレートが出てますよ」「今日はマグロよりカツオのほうがいいわよ」などと言ってあげるようになったのです。レジに並んでいたお客さんも応えます。「いいこと言ってくれたわ 今から換えてくるわ」そう言ってコミュニケーションをとり始めたのです。彼女は、だんだんこの仕事が楽しくなってきました。

そんなある日のことでした。「今日はすごく忙しい」と思いながら、彼女はいつものようにお客さんとの会話を楽しみつつレジを打っていました。すると 店内放送が響きました。

「本日は大変混み合いました大変申し訳ございません。どうぞ空いているレジにお回りください」ところが、わずかな間

をおいてまた放送が入ります。「今日は混み合いまして大変申し訳ありません。重ねて申し上げますが、どうぞ空いているレジのほうへお回りください」そして3回目、同じ放送が聞こえてきた時に初めて彼女はおかしいと気づき周りを見渡して驚きました。どうしたことか5つのレジが全部空いているのに、お客さんは自分のレジにしか並んでいなかったのです。店長があわてて駆け寄ってきます。そしてお客さんに「どうぞ空いているあちらのレジへお回りください」と言ったその時です。お客さんは店長に言いました。「放っておいてください。私はここへ買い物に来てるんじゃない。あの人としゃべりに来てるんだ。だからこのレジじゃないとイヤなんだ」

その瞬間 レジ打ちの女性はワッと泣き崩れました。

お客さんが店長に言いました。「そうそう、私たちはこの人と話をするのが楽しみで来てるんだ。今日の特売はほかのスーパーでもやってるよ。だけど私はこのおねえさんと話をするためにここへ来ているんだ。だからこのレジに並ばせておくれよ」彼女はポロポロと泣き崩れたままレジを打つことができませんでした。仕事というのはこれほど素晴らしいものだと初めて気づきました。

すでに彼女は昔の自分ではなくなっていたのです。それから彼女はレジの主任になって新人教育に携わりました。彼女から教えられたスタッフは、仕事の素晴らしさを感じながらお客さんと楽しく会話していることでしょう。

～あなたが変わることで、人は変わることができます～

ある小学校で良いクラスをつくろうと一生懸命な女の先生がいた。その先生が五年生の担任になった時一人、服装が不潔でだらしなく、遅刻をしたり、居眠りをしたり皆が手をあげて発表する中でも、一度も手を上げない少年がいた。先生はどうしてもその少年を好きになれず、いつからかその少年を毛嫌いするようになった。中間記録に先生は少年の悪いところばかりを記入するようになっていた。

ある時、少年の一年生からの記録が目にとまった。そこにはこう書いてあった。「朗らかで、友達が好きで、人にも親切。弁口もよくでき、将来楽しみ」とある。間違いだ。他の子に違いない。先生はそう思った。二年生になると「母親が病気で世話をしなければならず、時々遅刻する」と書かれていた。三年生では「母親の病気が悪くなり、疲れていて、教室で居眠りする」。三年生の後半の記録には「母親が死亡。希望を失い、悲しんでいる」とあり、四年生になると「父は生きる意欲を失い、アルコール依存症となり、子どもに暴力をふるう」。先生の胸に激しい痛みが走った。だめと決めつけていた子が突然、深い悲しみを行き抜いている生身の人間として自分の前に立ち現れてきたのだ。

先生にとって目を開かされた瞬間であった。放課後、先生は少年に声をかけた。「先生は夕方まで、教室で仕事をするか

ら、あなたも勉強していかない？わからないところは教えてあげるから」。少年は初めて笑顔を見せた。それから毎日、少年は教室の自分の机で予習復習を熱心に続けた。授業で少年が初めて手をあげた時、先生に大きな喜びがわき起こった。少年は自信を持ち始めていた。

六年生で先生は少年の担任ではなくなった。卒業の時、先生に少年から一枚のカードが届いた。「先生は僕のお母さんのようです。そして、今まで出会った中で一番素晴らしい先生でした」それから六年。またカードが届いた。「明日は高校の卒業式です。僕は5年生で先生に担当してもらって、とても幸せでした。おかげで奨学金ももらって医学部に進学する事ができます」十年を経て、またカードがきた。そこには先生と出会えた事への感謝と、父親に叩かれた体験があるから感謝と痛みが分かる医者になれると記され、こう締めくくられていた。「僕はよく五年生の時の先生を思い出します。あのままだめになってしまう僕を救ってくださった先生を、神様のように感じます。大人になり、医者になった僕にとって最高の先生は、五年生のときに担任して下さった先生です。」

そして一年。届いたカードは結婚式の招待状だった。

「母親の席に座ってください」

と一行、書き添えられていた。先生は嬉しくて涙が止まらなかった。

グレゴリーへ（子供に携帯電話を与えた親子の契約書）

メリークリスマス！あなたは今日から iPhone の所有権を持つことができます。やったね！責任感のあるお利口な 13 歳なので、このプレゼントはあなたに相応しい。しかし、このプレゼントと受取ると同時にルールや規則が付いてきます。以下の使用契約をゆっくり読んでください。私の親としての仕事も分かって欲しい。あなたを健康で豊かな人間性を持った、現代のテクノロジーうまく活用していける大人に育てなければならぬといことを。以下の規則を守ることができなかつた場合、あなたの iPhone 所有権も無くなります。あなたが大好きでたまりません。あなたと何百万個ものメッセージ交換をするのが楽しみです。

- 1.これは私の携帯です。私が払いました。あなたに貸しているものです。私ってやさしいでしょ？
- 2.パスワードはかならず私に報告すること。
3. これは「電話」です、鳴ったら必ず出ること。礼儀良く「こんにちは」と言いなさい。発信者が「ママ」か「パパ」だったら必ず出ること。絶対に。
4. 学校がある日は 7:30pm に携帯を私に返却します。週末は 9:00pm に返却します。携帯は次の朝の 7:30am まで電源オフ

になります。友達の親が直接出る固定電話に電話出来ないような相手ならその人には電話も SMS もしないこと。自分の直感を信じて、他の家族も尊重しなさい。

5. iPhone はあなたと一緒に学校には行けません。SMS をする子とは直接お話しなさい。話すことは人生のスキルです。
注：半日登校、修学旅行や学校外活動は各自検討します。

6. 万が一トイレや床に落としたり、無くしたり、破損させた場合はの修理費用は自己負担です。家の芝生を刈ったり、ベビーシッターをしたり、お年玉でカバーしてください。こういうことは必ず起こります、準備しておいたほうが良いでしょう。

7. このテクノロジーを使って嘘をついたり、人を馬鹿にしたりしないこと。人を傷つけるような会話に参加しないこと。人のためになることを第一に考え、喧嘩に参加しないこと。

8. 人に面と向かって言えないようなことをこの携帯を使って SMS やメールでしないこと。

9. 友達の親の前で言えないようなことを SMS やメールでしないこと。自己規制してください。

10. ポルノ禁止。私とシェアできるような情報をウェブで検

索してください。質問などがあれば誰かに聞きなさい。なるべく私かお父さんに聞いてね。

11. 公共の場では消すなり、サイレントモードにすること。特にレストラン、映画館や他の人間と話す時はそうしてください。あなたは失礼なことをしない子です、iPhone がそれを変えてはいけません。

12.他の人にあなたの大事な所の写真を送ったり、貰ったりしては行けません。笑わないで。あなたの高知能でもそういうことがしたくなる時期がやってきます。とてもリスクなことだし、あなたの青春時代・大学時代・社会人時代を壊してしまう可能性だってあるのよ。よくない考えです。インターネットはあなたより巨大で強いよ。これほどの規模のものを消すのは難しいし、風評を消すのも尚更難しい。

13.写真やビデオを膨大に撮らないこと。すべてを収録する必要はありません。人生経験を肌身で体験してください。すべてはあなたの記憶に収録されます。

14.ときどき家に携帯を置いて出かけてください。そしてその選択に自信を持ってください。携帯は生きものじゃないし、あなたの一部でもありません。携帯なしで生活することを覚えてください。流行に流されない、FOMO(自分だけが取り残されていると思ってしまう不安感)を気にしない器の男に

なってください。

15.新しい音楽、クラシック音楽、あるいは全員が聞いている音楽とは違う音楽をダウンロードしてください。あなたの世代は史上もっとも音楽にアクセスできる世代なのよ。この特別な時代を活用してください。あなたの視野を広げてください。

16.ときどきワードゲームやパズルや知能ゲームで遊んでください。

17.上を向いて歩いてください。あなたの周りの世界を良く見てください。窓から外を除いてください。鳥の鳴き声を聞いてください。知らない人と会話をもってみてください。グーグル検索なしで考えてみてください

18.あなたは失敗する。そのときはこの携帯をあなたから奪います。その失敗について私と話し合います。また一からスタートします。あなたと私はいつも何かを学んでいる。私はあなたのチームメイトです。一緒に答えを出して行きましょう。

この条件を合意してくれることを願っているよ。ここにリストしてあるほとんどの条件は人生をうまく生きるための条件にも当てはまるものだから。あなたは常に激変していく世の中で成長しています。とてもエキサイティングで気を引く体

験だと思う。できるだけシンプルに物事を考えて行ってください。どんな機械やガジェットよりも自分のパワフルな考え
方と大きな心を信じてください。あなたが大好きなのよ。あ
なたの素晴らしい iPhone を楽しんでね。

母より。

最後までお読みいただきまして

ありがとうございました

ひとつ目と二つ目のお話は、本当にあった話かどうかはわかりませんが、仕事に対する想いを共感することができました。三つ目のお話はアメリカの実話です。これからの子供たちは自然にネット社会でもまれます。大人も未経験のことが多いですが、子供の幸せのためには必要なことだと感じました。この冊子を手にとられたすべての人が心豊かになることを祈念しております。

株式会社くるま生活は幸福創造企業です。

私たちは人が幸福になるために必要な事は二つあると考えています。

- ①人に存在を認められる事
- ②素敵な想いが実現すること事

私たちとご縁がある方は勿論のこと、ご縁の無い方も幸福になるように仕事させていただきます。(*^^)v

〒720-0961

広島県福山市明神町2丁目9-25

株式会社くるま生活

代表取締役社長 井上康一

TEL 084-943-7123

info@kurumaseikatsu.co.jp

第1回作成 2013年4月5日

コピー大歓迎。何部でもお届けします。